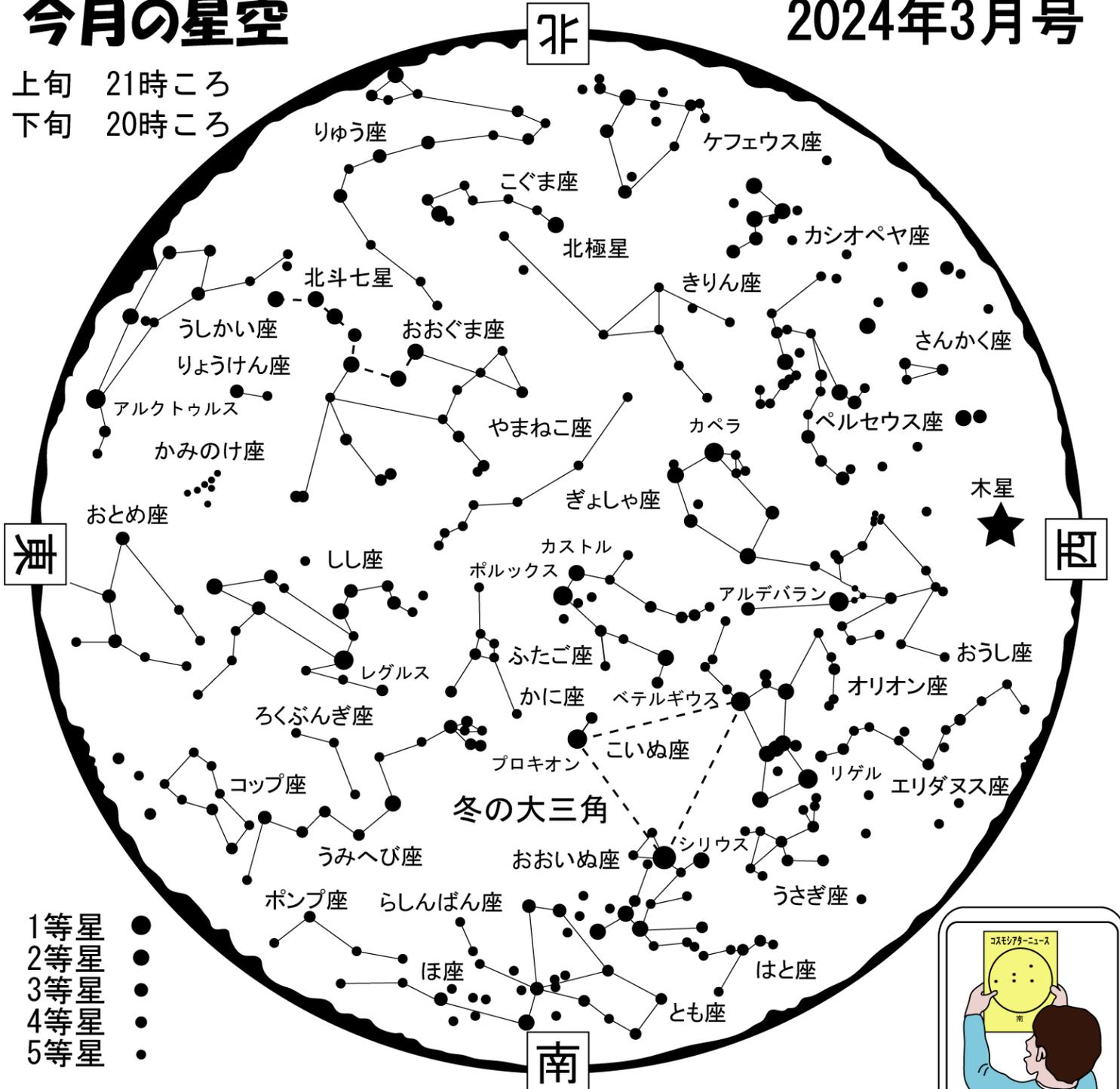


コスモシアターニュース

今月の星空

2024年3月号

上旬 21時ころ
下旬 20時ころ



惑星の動き

水星：下旬の夕方、西のたいへん低い空に見えます。明るさは-1~0等星です。
金星：見かけ上太陽に近く、肉眼で見つけるのは難しいでしょう。
火星：見かけ上太陽に近く、肉眼で見つけるのは難しいでしょう。
木星：夜のはじめころ、西の空に見えます。明るさは-2等星です。
土星：見かけ上太陽に近く、肉眼で見つけるのは難しいでしょう。

今月の月の満ち欠け

下弦：4日(月) 新月：10日(日) 上弦：17日(日) 満月：25日(月)



自分の向いている方向を下にして、見てください

14日(木)、西の空で、月と木星が並んで輝く

14日(木)の20時ころ、西の空に、細い月が輝いています。そして、この月の左下を見ると、明るい星が輝いているのが分かるでしょう。この星が木星です。木星は2等星で、普通の1等星の20倍くらい明るいので、大変目につくでしょう。

ところで、木星の位置は、前後数日変化がありません。しかし、月の位置は、右のように変化します。月が木星に最も接近するのが、14日ですが、13日(水)も比較的近い位置で見えています。ただし、月は、木星より少し下の位置に見えるでしょう。

なお、月と木星は、時間がたつと高さが低くなっていきます。21時ころまでに見るといいでしょう。また、前の時間の19時ころは、もっと空高く、夕焼けの中に見えます。

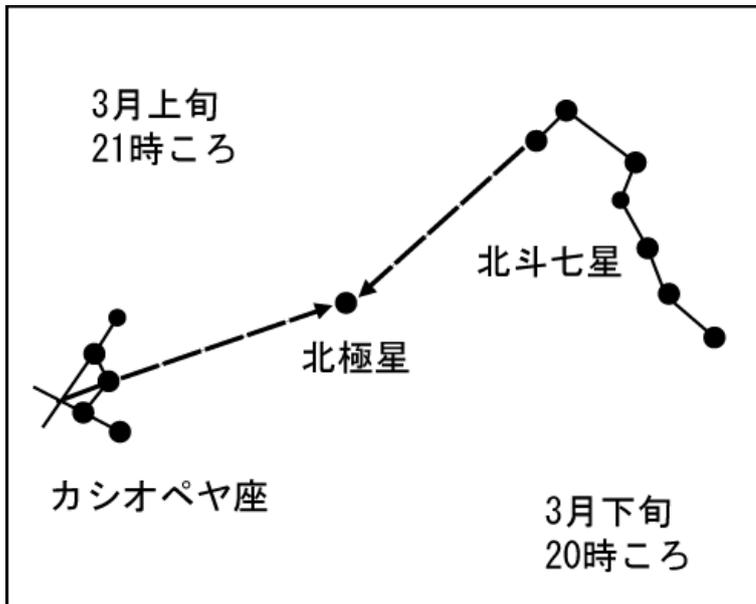
25日(月)、水星が東方最大離角

25日(月)の夕方、太陽から最も水星が離れて見える、東方最大離角(とうほうさいだいらかく)となります。水星は、このころ、夕方の西の低い空に見え、1年でいちばん見やすい日となります。ただこの日だけでなく、前後5日ほど見やすい日が続きます。天気が良いれば、ぜひ探してください。

見やすい時間は、19時10分から20分ころの、短時間に限られます。

このころに、西の空を見ると、木星が明るく輝いています。これを目印にして、地平線に目をおろすと、水星が見えます。水星の明るさは、木星より暗めです。このあたりは、水星より明るい星がないので、星が見つければ、水星になります。視力に自信がない方は、小さな双眼鏡があれば簡単に見つかるでしょう。

★北極星を見つけよう



北極星は、ほぼ真北に見え、ほとんど動くことがなく、北の方位を教えてくれる星です。しかし、明るさは2等星で、特別明るい星ではなく、時々わからなくなることがあります。

こんな時は、北斗七星の星の並びから、見つけることができるのです。北極星の場所は、右のように、北斗七星の端の二つの星を結んで、その間隔を5倍延ばした所となります。

北の空の星は、北極星をほぼ中心に、時計の針と反対方向に動いています。このように北極星は、北の方位を教えてくれるだけでなく、星の動きもお教えてくれますので、もし北斗七星が見つかったら、北極星を捜してみてください。なお、右の図の方法で、カシオペヤ座からも北極星を見つけることができます。ただ春の時期は、カシオペヤ座の高度が低く、見つけるのは難しいでしょう。

★北斗七星

北斗七星は、見つけやすい星の並びです。このため、多くの方がご存知かと思いますが、それぞれの星の名前は、あまり知られていません。実は、1等星のようにすべての星に名前がついています。ぜひ、実際の星空で、どの星がどんな名前か、図を参考に探してみてください。

なお、北斗七星の柄の先から、2個目の星は、ミザールという名前がついていますが、そのそばに、アルコルという名前がついた、暗い星が並んで見えます。注意深く探さか、小さな双眼鏡を使うと見えてきます。このミザールと、アルコルの二つの星は、昔、視力検査に使われていたそうです。いい天気の日、二つの星が分かれて見えなければ、視力が悪くなっている印ですので、こちらにも注目してください。

